



『新魚類解剖図鑑』

〈緑書房 2010.6〉
 [所在] 図・開架・図書
 [請求記号] 487.51/Sh 62

木村清志 先生

生物資源学研究科附属施設
 附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター
 附帯施設水産実験所教授

魚の学習や研究に必携の「新魚類解剖図鑑」。写真やイラストが満載！
 監修をされた木村先生にお話を伺いました。

まだまだ、わからないことの方が多いです

先生の研究について教えてください。

現在は魚類の分類学的研究が主体です。特に東南アジア域、太平洋、インド洋といった暖かいところの魚の分類学的研究です。

はじめは魚の生活史、水中で魚がどうやって暮らしているのかという事が、一番の興味でした。陸上の生き物なら観察していきますが、魚はボンベをつけて潜っても二日二時間二時間しかできないし、だから余計にどうやって生きていっているのかという興味がありました。

そのような生態学の研究の一環で、東南アジアの魚の生態を調べる機会があり、インドネシアに行きました。さて、調べようと思ったのですが名前がわからないんです。向こうの人も知らない。図鑑も

ない。熱帯魚のようにきれいな魚の図鑑はたくさん出ていましたけどね。

こんな状態で生態なんて調べられるわけがない。もともと基礎の分野をやらなければならぬと思いきらされました。それで分類学的な仕事をやり始めました。それでもまだ、わからないことの方が多いですけどね。

原点は、子どものころの魚つり

子どものころからお好きだったのでしょか。

そうですね、子どもの時から魚は好きでした。釣りとか、親に連れて行ってもらいました。夏休みには用水路で魚取りを覚えました。私が魚を好きになった基礎、原点ですね。でも小学生、中学生のときは電子工学、電気工

作が好きだったんですよ。自分の将来はこれだなあと考えていました。

それが高校生になって変わりました。クラブの展示で、生物部があつて、魚の標本を置いてあったのですが、それが間違っていたんですよ。魚釣りが好きだったので、図鑑で調べていたのですが、ここが違うとか、あれが違うとか、言っていたら生物部に入ることになりました。魚のこと、電気のこと、どっちが本職でどっちが趣味か、ここで入れ替わりました。

大学は、魚をやるなら水産系かなと思つて三重大学の水産学部を選びました。三年生の時に、水族館をやるうと言つて、先生方にくつつか水槽を借りて行きました。学祭で水族館をやつてから、「ああ、ずっとこういう仕事ができたらいいな」と思うようになりました。

よりわかりやすく、ビジュアル化

「著書『新魚類解剖図鑑』について」紹介をお願いします。



◀志摩市にある水産実験所。真珠養殖で有名な英虞湾の中央部にあり座賀島に位置しています。



▲日本学術振興会のプログラムでマレーシアのポートディクソンで現地学生に魚の説明をしているところ。

▲水産実験所での臨海実習の様子。

【木村清志先生プロフィール】

三重大学水産学部卒業後、同大学院水産学研究科修了。1978年～現職。1982年、京都大学農学博士。専門は魚類分類・系統学、魚類・資源生物学。毎日志摩の海を見て研究・教育を行っている。主な業績に、Revision of the genus *Nuclequula* with descriptions of three new species (Perciformes : Leiognathidae). Ichthyological research formerly Japanese Journal of Ichthyology. 共著。2008, vol. 55, no. 1, p. 22-42., Redescriptions of the Indo-Pacific atherinid fishes *Atherinomorus forskalii*, *Atherinomorus lacunosus*, and *Atherinomorus pinguis*. Ichthyological Research. 共著。2007, vol. 54, no. 2, p. 145-159. などがある。

積極的に自分をアピール

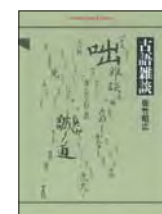
三重大学生にメッセージをお願いします。

三重大生はおとなしいと言うか、シャイな人が多いですね。もともとみんなの前で自分の実力をアピールする力があると思います。虚勢を張るのではなく、自分にあつたアピール力を身につけてほしいです。私たちの時は、はじめにやっていた誰かが見てくれるって思っていましたけど、最近自分アピールしていかなくてはいけないのかもしれないですね。

READING LIST

これだけは読んでおきたい!! 各学部の先生からのオススメ本

教育学部 松本昭彦先生



佐竹昭広 著
『古語雑談』

平凡社
[所在] 図・開架・PB
[請求記号] 814/Sa 83

古語についての興味深い「雑談」(ザウタン)をまとめたもの。全124項目、いわゆる国語学・国文学の範囲にとどまらず、例えば、万葉集の時代には「すべての日本人が独立した黄色の概念を持ち合わせなかった」ことや、算数の「九九」があり、しかも「九九=八十一」から始まることなど、内容も多岐にわたり、様々な時代の言葉・社会状況・人々の意識が明らかにされる。「古語」に関心のある学生も、ない学生も面白く読める。

人文学部 堀内義隆先生



安富歩、本條晴一郎 著
『ハラスメントは連鎖する: 「しつけ」「教育」という呪縛』

光文社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 361.5/Y 66

人は成長の過程で自分の外にある規範を内面に取り込んでゆく。この外的規範が絶対視され、自分本来の感覚の方が信じられなくなる(そうさせられる)ことがハラスメントの本質である。おそろしいのは、ハラスメントが連鎖的に拡大し社会を歪めてゆくことである。これを防ぐためには、まず自分の状態に気づき、状況を理解することが大事である。なんとなく気分が重たい人におすすめ。

医学部 小川朋子先生



ロバート・カーソン著:
池村千秋訳 著
『46年目の光: 視力を取り戻した男の奇跡の人生』

NTT出版
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 289.3/Ma 98

「視力のある人生は素晴らしい。けれど、視力のない人生も素晴らしい。」と心から思っていた男が46才で視力を取り戻した時、何が起きたか? 幹細胞移植という最新の医学とその治療を受けた主人公の人生。「冒険心」と「好奇心」に満ちた生き方に感動させられ、さらに視覚の謎をわかりやすく解き明かしてくれる。医学の進歩と人間の無限の可能性を感じさせてくれる一冊である。

工学部 大山 航先生



Dennis E. Shasha著:
吉平健治訳
『プログラマのための論理パズル: 難題を突破する論理思考トレーニング』

オーム社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 007.64/Sh 13

“考える力” “問題解決能力” “柔軟な発想と応用” 社会が学生に求める能力は、時代とともにどんどん高くなっていく。残念ながらこれらのチカラを鍛える方法に王道はない。くりかえし、くりかえし、訓練を積み重ねない。でも、少しでもラクに楽しく鍛えたいと思うよね。そんなときにはこの本のパズルがおすす。プログラマを目指す学生に限らない、全ての学生に「論理的思考力」を!

生物資源学部 奥村克純先生



D・サダヴァ他著:
石崎泰樹、丸山敬監訳・翻訳
『カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書(1巻: 細胞生物学、2巻: 分子遺伝学、3巻: 分子生物学)』

講談社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 460/Ka 64/1-3

近年の生物学における研究の進展や社会への影響は著しく、文系の学生でも生物を知ることが人間社会を考えるうえで必須である。本書は、米国MITで文系理系すべての学生必修の一般教養指定教科書「LIFE」から抜粋した精髄3分野の翻訳書である。図や説明も明解かつ奥深く、細胞と生命の基本、生命の設計図、生物学の応用のすべてがわかる世界基準の教科書。ぜひ読んで現代生物学を概観しよう。

共通教育 荻原 彰先生



キャロル・オフ著:
北村陽子訳
『チョコレートの真実』

英治出版
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 617.3/O 19

甘くおいしいチョコレート、しかしその原料のカカオ豆は、人身売買され、奴隷として働く発展途上国の子どもの労働によって支えられている。低コストの児童労働によって莫大な富を築き上げた巨大多国籍企業の実態を詳述している。ここに描かれていることがすべてのカカオ豆生産にあてはまるわけではないにせよ、何気なく食べているチョコレートに潜む闇の部分を考えさせてくれる。